



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和5年1月10日

1月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号 Tel.045-401-9532 fax045-431-9538
横浜市立篠原小学校 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinohara/>

つなげて 広げる 新年に！

副校長 三上 顕

新しい年が明けました。充実した一年にするべく、決意も新たにされていることかと思えます。2023年、みなさんはどんなことを目指した一年を思いうかべておりますでしょうか。

「主体的に〇〇する人に」これは、教育業界のみならず、多くの世界で目指したい人間像の一つではないかと思えます。ぼんやりイメージはわきますが、具体的にどんな姿なのでしょう。昨年、何度か篠原小学校の学級で授業をする機会がありましたが、その際の子どもの姿から改めてこのことについて考えました。それは、気づきをつなげ、広げて学び進む姿ではないかと思えます。

その授業は社会科で、防災について、火災の視点から考える授業です。出合った事実の一つだけ。火災の時に建物が燃え尽きてしまうまでの時間です。その時間を知っても、その時間が長いのか短いのかわかりません。子どもたちは、消防車が現場につくまでの時間を知ると、追究は一気に広がりました。その追究は、自分たちの住む町にも及びます。「篠原の町は道が狭いから消防車が入ってこれないから危ないなあ」「木や燃えやすいものもあるから心配」「消火栓まで遠いからどうしよう」「坂道も多いから、火を消すのもたいへんだと思う」というように。その後も追究は途絶えず、「だとしたら、篠原の町はどうやって火災から守っているのかな？」「消防士さんはどのように町を守っているのかな？」のように人や地域に着目した新たな問いが生まれます。感じた危機感から、「町や学校、自分たちを火災から守るにはどうしたらいいか考えたい！」そのような防災意識が芽生えた子どももいました。たった一つの事柄から想像を広げ、新たな「？」を生み、防災意識まで発展させた篠原の子どもたちの力にびっくりさせられた授業でした。自分の考えが広がったことで、友だちの視点の尊さに気付いた子どももいたようです。

学んだことをそのままにせず、「だとしたら？」「もっと〇〇にするには？」とつなげて考えてみる。そのつなげる方向性と気づきは多種多様であり、人の考えをおもしろいと思うと新たな視点を得てさらに追究が進みます。多種多様だからこそ、みんなで学ぶ意味合いを感じます。そんなことを篠原小学校の子どもたちから学びました。ふとしたところで出会う情報を生きた知識に。私もそうして学び進んでいきたいと思えます。2023年、篠原小学校の子どもたちがよりよく学び進みますように。それを祈念して、決意も新たに取り組んでいきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。